

1 内政

米、FSM 政府に対し人身売買予防に一層の努力が必要と報告

14日、米国務省が発表した監視報告によれば、FSM における人身売買状況は改善しているものの、依然 下から2番目のひどい状況(Tier2)にあるとランク付けし、改善の余地は大きいと報告している。他方で、報告書によれば、FSM連邦政府の取り組みは最低限の人身売買対応の基準も満たしてはいない状況ではあるが、その対応努力は認められるものであり、それゆえ前回同様の Tier2 のランクにとどめたとも述べている。連邦政府はこれまで人身売買に関する捜査を増強し一人を有罪とした他、政府部内において人身売買の違法性に関する認識を高める努力をしてきたと報告している。(7月14日付カセレリエプレス紙)

ポンペイ警察学校で33名の警察官が訓練を受ける

17日、FSM 政府は警察官の質の向上、専門性を高めるため、FSM 全土から集まった33名の警官代表に対し、PICS 高校のグラウンドにて、ポンペイ警察学校主導による訓練を豪州警察から派遣された指導官の協力を得て行った。訓練に先立ち行われたセレモニーではクリスチャン大統領、オリバー・ポンペイ州副知事が出席し訓練生を激励した。(7月17日付カセレリエプレス紙)

コロニア市消防隊に対しポンペイ港湾消防による消防訓練が実施される

21日、ポンペイ港湾消防局は、5月にコロニア市に設置された消防部隊の10名の隊員に対し2ヶ月間行ってきた消防訓練を終了した。ニコラス・コロニア市長はコロニア市に消防隊を設置することは長年の課題であったが、これでコロニア市内で発生した火災に対して同市の消防隊が第一義的に対応できることになったと述べた。(7月21日付カセレリエプレス紙)

2 外交

米大使館で米独立を祝うレセプションが実施

4日、当地米大使館で米の241回目となる独立を祝うレセプションが行われた。レセプションにはロバート・リレイ駐 FSM 米大使、ピーターソン・ポンペイ州知事、スサイア駐米 FSM 大使などが出席し祝辞を述べた。(7月17日付カセレリエプレス紙)

リー中国大使、ローレンス FSM 銀行幹部と会談

11日、リー中国大使は本年6月に中国で開催された「一帯一路」サミットに出席した FSM 銀行のローレンス・ファイナンス部長と会談した。ローレンス部長からはサミットに対する招待に謝意が伝えられると共に、今次訪中を通じて中国経済の発展ぶりが印象的であったとの発言があった。また両者は、財政の人材育成に関わる協力について意見交換を行った。（7月11日付当地中国大HP）

リー中国大使、ロバート外相、ピーターソン・ポンペイ州知事と個別に会談

19日、リー中国大使はロバート外相及びピーターソン州知事と個別に会談し、ロバート外相とは今後の要人往来について、また、ピーターソン州知事とはポンペイ第2道路建設や農業開発に関する意見交換を行った。（7月19日付当地中国大HP）

3 経 済

小規模再生可能エネルギープロジェクト実行のためSPCはネット・メータリングの専門家を探す

太平洋諸島事務局（SPC: Secretariat of the Pacific Community）は、ネット・メータリング（Net Metering）に関するミクロネシア連邦の各州の既存の規則を実施に移し、新しい規則を発展させる専門家を必要としている。ネット・メータリングとは、ソーラーパネルやその他の再生可能エネルギーの発電機が、公共用の電気グリッドに接続され、余剰エネルギーがそのグリッドに移されるというシステムであり、利用者の電気利用料の相殺を可能とするものである。ポンペイ州議会は、数年前にネット・メータリングを可能とする法律を整備していたが、ポンペイ公益事業公社が政策を持たず、当該法律を運営できないためネット・メータリングを実現できないでいる。

（7月15日付カセリエプレス紙）

ミクロネシア連邦が太平洋で最初の緑の気候基金のプロジェクトを進める国に

18日から21日、トンガで、140地域の代表者が参加し、緑の気候基金構造化対話（The Green Climate Fund(GCF) Pacific Structured Dialogue）が開催された。その対話の中では、ミクロネシア連邦が太平洋で最初の緑の気候基金のプロジェクト案を提出する国になると発表され、同国は、基金を活用した取組を促進する GCF 準備資金を受け取る46番目の国となる。ミクロネシア連邦は、国のプロジェクト案作成後、世界で三カ国しかない本件プロジェクトを実施する国の一つとして、ザンビア、アンティグア・バーブーダに加わる。同国は2016年11月から本プロジェクトに関する作業を進めてきていたが、同国にとって大きな利点はもう一つあり、MCT（Micronesia Conservation Trust）も緑の気候基金に公認されたことである。太平洋地域では MCT の他の5団体が同様に公認されている。

(7月31日付カセリエプレス紙)

バイオガスのワークショップがポンペイで開催される

20日、ポンペイ州のミクロネシア連邦試験農場(FSM Pilot Farm ※)で、中国の技術者チーム及びポンペイ州農業資源開発局が、バイオガスのメンテナンス、問題時の解決方法及び安全な利用についての研修会を開催し、実際にバイオガスを利用する参加者は熱心に耳を傾けた。

※試験農業の運営は中国

(7月20日付カセリエプレス)

ミクロネシア連邦、マーシャル及びパラオに、将来的なエルニーニョ現象に順応するための策作のための EU と SPC の協定

EUとSPC(The Pacific Community)が、ミクロネシア連邦、マーシャル及びパラオに干ばつをもたらす将来的なエルニーニョ現象に対する順応策を構築するための協定に署名した。2016年末に、EDF(European Development Fund)が同3カ国に4.5百万ユーロを支援する旨決定していた経緯がある。2015年から2016年に発生したエルニーニョ現象は、最も深刻なものの一つで、1997年から1998年及び1982年から1983年の現象に匹敵するものであった。

(7月20日付カセリエプレス)

4 経済協力

米海軍設営隊、学校の改修を完了

6月29日、米海軍設営隊がコスラエ州の学校の改修工事を完了した。老朽化が原因で2016年に同校の屋根が崩壊し、今年の2月から改修工事が行われていた。完成により210人の生徒がより快適な環境で勉強できるようになり、また、近隣の学校の混雑の解消につながる。工事には2人の現地人も参加した。

(6月29日付 カセリエプレス紙)

米海軍設営隊、診療所の開業を機にミクロネシア連邦との関係を強化

7月25日、コスラエ州のワラン村で診療所の引き渡し式が行われ、政府関係者や100人を超える村人が集まった。建設は今年の2月に開始され、5つの部屋を備える同診療所は飲料水の提供も行う。工事は9人の米海軍設営隊と4人の現地人によって行われ、技術指導なども行われた。ジャクソン・コスラエ州知事は、1969年に開始されたコスラエ州における米国の建設支援は常にプラスのインパクトをもたらしてきた、と感謝の意を述べた。

(7月26日付 カセリエプレス紙)

ポンペイ出身のエンジニアが Pacific LEADS 研修プログラムを利用して北海道大学に留学

Dayn Iehsi さんは第7回島サミットで安倍首相が立ち上げた Pacific LEADS 研修プログラムを利用して、今年の夏から北海道大学の大学院で持続的な建設管理 (sustainable construction management) を勉強する。彼はイリノイ大学で土木工学の学位を取得した後、約2年、ミクロネシア連邦政府の Project Management Unit (プロジェクトの執行・管理を行う部署) に勤務していた。昨年、同プログラムを利用して留学中の Alysa Nakasone さんは保健学 (非感染症疾患) の修士課程に在籍している。同プログラムは主に行政官を日本の大学に留学させ、開発課題の専門知識を身につけてもらい、日本との関係を深めることを目的として、二国間 ODA の一環として始まった。留学生は2年半をかけて日本の大学院 (言語: 英語) を卒業する。当地 JICA 支所長の柴田氏は、留学費用は日本負担であるにも関わらず、中々候補者が見つからないことは残念である。これは、ミクロネシア政府が留学のための休職を1年しか許さず、離職しなければならないからだろう、と述べた。また、Dayn Iehsi さんに対しては、経験したことをたくさんのミクロネシア人に共有して欲しい、あと1年しかないこのプログラムを広めて欲しい、と述べた。25歳の Dayn Iehsi さんは8月15日に沖縄で開始されるオリエンテーションに参加後、北海道に向かう予定。北海道は寒いことで知られているが、彼は、イリノイの経験があるので寒さは大丈夫です、と述べた。また、彼は留学中の Alysa Nakasone さんとも密に連絡を取っており、留学の準備に大いに役に立っている、また、修士課程修了後はミクロネシアに戻ってきて国の発展に貢献したい、と述べた。

(7月21日付 カセレリエプレス紙)

楽しい夏休み(ピースコーの教育実習)

7月、米ピースコー、ポンペイ州教育局、ミクロネシア短期大学の協力の下、6週間の英語教師養成プログラムが行われた。うち3週間は100人以上の地元の子供たちも参加し、歌、演劇、ダンスなどのアクティビティを含む実習形式で行われた。プログラムの参加者は現地ミクロネシア人教師19人と4年生大学を卒業した米ピースコーの19人であり、ピースコーの19人は、8月中旬よりそれぞれ4州の小学校に派遣され、アシスタントとして現地教師と共に2年間、授業を行う。今回のプログラムは彼らの赴任前研修 (10週間) の一環として行われ、今年で6年目の実施となる。プログラムではピースコーと現地教師がそれぞれの授業を見せ合い、スタイルの違いを発見したり、一緒に授業計画を立てたりした。参加した現地人教師は、授業の進め方や時間管理など今後の参考になった、と述べた。プログラムの目的は、ピースコー参加者が派遣前にミクロネシアの学習環境に慣れることや、地元の子供たちに英語を勉強する機

会を与えることである。米ピースコーは1961年に活動を開始し、これまでに世界の140カ国以上で25万人が参加している。ミクロネシア連邦での活動は1966年から多岐にわたる分野で行われ、6,000人以上が参加している。

(7月25日付 カセレリエプレス紙)

5 文化・教育

豪大使館、アボリジニの写真展を開催

2日から9日にかけて当地豪大使館は Yiwarra Kuju と題する先住民族アボリジニの写真展を市内のホテルにて開催した。

(7月3日付 カセレリエプレス紙)

第8回ヤップ州カヌーフエスティバルの開催決定

第8回ヤップ州カヌーフエスティバルが12月8日、9日にヤップ州コロニア地区にある歴史博物館開催されることが決定した。パレード、ダンス、写真展、カヌー作りの実演やカヌー体験なども行われる予定。学者兼映画監督であるEric Metzgarさんは2010年に行われたヤップ州やパラオ、グアムでの航海を映した自作の動画を上映する予定。

(7月3日付 カセレリエプレス紙)